

令和8年3月31日

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立三笠小学校（外 10校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立三笠小学校	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp?page_id=24990	http://www.kashima.ed.jp/~mikasael/wp?page_id=24990

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFA ワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「Colorful Stage KASHIMA ~ひとあざやかに ひとつのまちに~」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充

実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ⊙計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

なし。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ⊙実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
80.0%	13.8%	3.8%	2.4%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
73.8%	18.8%	5.0%	2.4%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかという話せるようになりたい	どちらかという話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
85.0%	8.8%	5.0%	1.2%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという知りたい	どちらかという知りたくない	知らなくてよい
80.0%	13.8%	1.2%	5.0%

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
70.5%	21.8%	6.4%	1.3%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
73.1%	19.2%	6.4%	1.3%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかという話せるようになりたい	どちらかという話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
73.1%	21.8%	3.8%	1.3%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという知りたい	どちらかという知りたくない	知らなくてよい
75.6%	17.9%	1.4%	5.1%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
70.4%	29.6%	0%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
85.2%	14.8%	0%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
59.3%	40.7%	0%	0%

④ 今後も、市による英語(外国語活動)の取組を続けてほしいですか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
85.2%	7.4%	3.7%	3.7%

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
49.1%	41.7%	4.6%	4.6%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
62.0%	32.4%	2.8%	2.8%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
46.3%	38.9%	11.1%	3.7%

④ 今後も、市による英語(外国語活動)の取組を続けてほしいですか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
77.8%	20.4%	1.8%	0%

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では教育目標を「夢や希望をはぐくみ個性を生かして学ぶ児童の育成」とし、児童の学ぶ意欲を向上させ、一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを行っている。小学校1・2年生における外国語活動の効果と課題は以下のとおりである。

【効果】

・ピクチャーカードや動画を活用し、文字を使わずに会話を通して学んでいる。

- ・ALT は、児童の発達段階に応じた英語の歌やゲームを提供し、児童は楽しみながら英語学習(第二言語学習)に取り組んでいる。

【課題】

- ・苦手意識をもっている児童が「英語が楽しい」「分かった」「できた」と感じることができるよう、発達段階に即した学習活動や振り返りの活動を行っていく。
- ・学習到達度目標(Can-do リスト)や学習した内容について、教職員や児童・保護者がいつでも把握できるように、年度始めに、学習到達度目標(Can-do リスト)を各クラスの Google Classroom に掲載する。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

パフォーマンステストでは、ルーブリックやモデル例を参考にしながら、課題の把握や単元で使用する表現を確認しつつ取り組んだ。加えて、日々の Small Talk の中で、単元全体を見通した学習活動を行うと共に、質問の仕方や答え方・反応等会話を続けていくための技能や知識等を学習した。また、昨年度に引き続き、Chromebook を活用し、自分が使いたい表現や知りたい英単語を調べ、活用する活動を行っているが、翻訳機能をそのまま使ってしまう児童もいる。ネイティブが使わない表現、英語圏で一般的ではない表現が提示されることもあり、提示された表現を疑わずに使ってしまうと、スピーチを聞いた人が伝えたいことを理解するのが難しくなる。昨年度同様、翻訳機能を効果的に活用し、正しい訳文を作成するためには、英語の知識を身に付けていくことが必要であることを伝えていく。また、本年度の英検 ESG テストの結果から、「イラストについての質問と答えを聞いて、その内容が分かる。」という問題の平均正答率は 85% で、他の大問に比べて正答率が低かった。

5. 課題の改善のための取組の方向性

[1・2年生外国語活動]

低学年の児童が外国語活動に参加できるように、自己紹介や TPR・アルファベット・色や形・数・食べ物や有名なものの言い方や表現を学習する。外国語活動においても、本校での特色ある取り組みの一環として、三笠スタイルを取り入れ、学習ルールの確立を行う。学校のホームページや学校だよりを活用して、年間の学習計画や授業の様子を紹介し、保護者が児童の外国語活動を知ることができるようにする。

[3・4年生外国語活動・5・6年生外国語科]

実際の日常会話を想定した場面・目的・状況が明確なパフォーマンステストを設定する。パフォーマンステストに向けて、教科書で学習した内容を児童が活用できるように、Small

Talk を取り入れて既習事項を繰り返し活用する活動を行う。児童同士が会話をさらに継続できるように、Repeat や Reaction、Ask question を活用する場面を積極的に設定し、会話の練習を行う。また、3・4年生では、非言語(ジェスチャー、アイコンタクト)等を積極的に活用していく。

5・6年生では、場面・目的・状況を明確にした上でパフォーマンステストを実施する。ALT やクラス、他学級へパフォーマンステストを実施する等、学習状況に応じてより実践的な取り組みを進める。加えて、英検 ESG からの課題である「イラストに関する質問と答えを聞いて内容を理解する力」を向上させるために、教科書の問題を解く前に、ALT が学習内容に関わる質問を投げかけ、「必要な情報」や「場面」の把握できるようにする等、児童一人一人が状況を推測し、既習の内容を活用できる授業づくりを行っていく。

